

# 東海医療工学専門学校 学校自己点検・評価表

評価対象期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

実施日：令和5年5月10日

## 1. 学校の教育目標

1. 在籍するすべての学生が目標を達成し、各々の満足が得られる教育の提供
2. 学生及び教職員がお互いに敬意をもって「挨拶・対話・助け合い」のできる教育環境の整備
3. 全員進級、全員卒業、全員国家試験合格へ導くための教育の提供
4. 学生自身の「リカバリー能力」が得られる教育の提供

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 高校生及び大学生、社会人などの救急救命士をめざす人材が全国から集まる学校創りと SNS を用いた認知度の向上を図る。
2. ICT教育などの教授学に基づいた技術革新を導入し、「わかりやすい表現による知識・技術の提供」によって教育の質の向上を図る。
3. 定期的に1年次初期から基礎学力の向上を目的とした国家試験問題の課題の作成、模擬試験を行うことによる成績の自己認識化、不足知識に対する放課後などを活用した補習の実施を図る。
4. 講義以外における学生への積極的な「挨拶・対話」を心掛け、問題点・改善点に対して教職員による情報共有を図る。
5. 成功体験が実感できる教育水準を構築し、定期的な失敗体験とフィードバックを与え、「リカバリー能力」の向上を図る。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1
1-1	学校の理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3
1-2	学生・保証人(保護者)に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	3
1-3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	3
1-4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	3
1-5	各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者とそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)	3
1-6	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか(学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか)	3
1-7	学校における職業教育の特色は明確になっているか	4

## ① 課題

学生及び保証人(保護者)に対して教育理念等の明文化による周知は「令和4年度卒業生アンケート」からも認知割合59.1%と不十分であった。コロナ渦ということもあり、周知できるツールとしてホームページ(以後「HP」と略)の掲載に限定され、日常的な視覚化などが行われていない現状であった。

## ② 今後の改善方策

令和5年度より学校内の玄関(訪問外来用・学生通用)および教室、廊下に「教育理念」を掲示し、視覚化による周知徹底を改善していく。なお、この掲示により入学希望者でもあるオープンキャンパス来校者や消防機関・自衛隊などに所属する人事担当者が訪問した際に周知することができる。

またInstagramなどのSNSを用いた社会的な認知度の向上を図っていく。

## 特記事項

救急救命士教育においても医療現場の進歩に伴う変化・改善により、教育内容および教授法も併せて変化していくことが求められている。

そこで本校では事業計画や教育課程編成委員会において毎年協議し、学生ニーズに応じた教育提供を常に心掛けている。そのための教員研修を定期的に行い、専門職業教育を提供している。

2 学校運営		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
2-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	3
2-3	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか	4
2-4	学校の年間スケジュールはあるか	4
2-5	寄附行為、理事会会議規則等(法人)、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会(法人)、学校の運営会議等が開催されているか	4
2-6	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-7	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか	4
2-8	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-9	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を受講させているか	4
2-10	教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	3
2-11	人事に関する制度を整備しているか	4
2-12	給与に関する制度を整備しているか	4

2-13	採用制度は文書化されているか	4
2-14	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

情報システム化による業務の効率化についてはペーパーレスの観点からもジョブカンを令和5年1月から試行導入している。勤怠については4月からスタートしているが定着までには時間を要することになるが慣れれば効率化に寄与する。

3 教育活動		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
3-1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	3
3-2	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	3
3-3	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4
3-4	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
3-5	シラバスあるいは講義要項(作成されればコマシラバス)などが事前に学生に示され(あるいはホームページなどで公開されて)、授業で有効活用されているか	4
3-6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4
3-7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか(学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか)	4
3-8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	4
3-9	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4
3-10	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-11	学生や保証人(保護者)に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4
3-12	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4
3-13	[職業実践専門課程]専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	4
3-14	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(発行する修了証明書の種類及び内容)	4
3-15	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	4

### ① 課題

教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)などをHPなどで掲示することで周知している。

しかし救急救命士の国家資格としての社会的な認知度、東海地区における救急救命士養成校としての社会的な認知度もあり、掲示・周知のみで「理解」レベルでは成果などの学校運営の向上が今以上に求められてくる。

### ② 今後の改善方策

現状においては内部組織による卒業生調査、在校生アンケート(授業評価)を主に活用し、外部組織による教育課程編成委員会における意見を活用し、教育カリキュラムの見直しを定期的に図っている。

また法令改正などの非定期的な教育カリキュラムの見直しの際には法的根拠や医学的な根拠を基盤として2年課程の時間数に置き換えるよう努めている。

### ③ 特記事項

現状における時間割(教育カリキュラム)の作成

- 1) 救急現場で求められる知識・技術に関する情報を収集する。
- 2) 上記で教育すべき内容を救急救命士標準テキストなどの文献から抽出し、教授内容及び時間数を策定する。
- 3) 1年生及び2年生の実習室の使用状況、外来講師の依頼および講義の日程調節により教育進捗表を作成する。
- 4) 時間割作成及び運営、その後の評価による改善を行う。

4 学修成果・教育成果		適切: 4、ほぼ適切: 3、やや不適切: 2、不適切: 1
4-1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか(測定する知識、スキル及び能力、測定の基準、アセスメントの方法は明確か)	3
4-2	就職率の向上が図られているか(結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか)	4
4-3	対外部に向けた就職実績を公表しているか(パンフレット・HP等)	4
4-4	資格取得率の向上が図られているか(目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか)	4
4-5	国家試験結果に関して検証・報告がされたか	4
4-6	国家試験結果(合格者数・合格率)を公表しているか	4
4-7	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか)	3

### ① 課題

救急救命士の主な就職先である消防機関をはじめとする地方・国家公務員では公務員倫理規定などの影響もあり、職業実践となる情報提供や消防機関での教育反映などが、公務員による民間企業への協力となるために困難な状況である。

現状では卒業生による個人的な意見を反映させることで学習成果の評価を得ている状況である。

### ② 今後の改善方策

救急救命士が所属する種々の学術集会・教育セミナー及び 全国救急救命士教育施設協議会(以後「JESA」と略する)における教員研修会に参加し、消防機関などに所属する救急救命士の学習成果の把握に努めている。

また令和3年10月以降の職域拡大に伴う医療機関に所属する救急救命士の学習成果の把握を積極的に行っていく予定である。

### ③ 特記事項

国家試験に関しては出題基準と救急救命士標準テキストによる教育カリキュラムのあり方を前年度に作成し、国家試験対策として運用を行っていく。学生の成績に応じた教育水準を幅広く用意し、数値化による成績低迷者への具体的なアプローチを行っている。

また進級判定及び卒業判定基準は国家試験合格率に反映され、数値化された学習成果の評価として成立している。

5 学生支援		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
5-1	学生への修学支援を適切に行っているか	4
5-2	進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれはきちんと学生や保証人(保護者)に周知されているか)	3
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)	4
5-4	学生の面談・相談記録があるか	4
5-5	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-6	学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4
5-7	退学率の低減が図られているか(受講登録、出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか)	4
5-8	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4
5-9	退学者数を公表しているか	4
5-10	保証人(保護者)と適切に連携しているか(保証人のニーズを把握しているか)	4
5-11	保証人(保護者)との計画的な相談会・面談を行っているか	3
5-12	卒業生への支援体制を整備しているか(再就職、キャリアアップ等について、相談に乗っているか)	3
5-13	卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか(卒業生への講習・研修を行っているか)	3

### ① 課題

コロナ禍の影響により、計画的な保護者会などの対面式相談会の実施が困難であった。現在、Zoom などによるオンライン会議や書面による通知文書により対応している。

また卒業後教育に関しては職場内教育のサポートの一環として個別のシミュレーション研修及び国家試験対策講義の聴講生制度を実施しているが、卒業後教育としての全体的な講習・研修会としては不十分である。

## ② 今後の改善方策

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症への対応が改正されたこともあり、保護者への対面式相談会及び卒業生への講習・研修会などを実施していく予定である。

再就職などの対応は、これまでの主な就職先が公務員であったために年齢条件などにより再就職への対応が狭く限定的であったが、医療機関などの雇用情報が増加したことで卒業生への支援の充実化が図れる。

## ③ 特記事項

退学に関しては日頃の学習成績から必要に応じた補習を放課後などに実施して知識の補充を図ることで学習支援を努めた。また今年度の自主退学者1名に関しては1年次在学中に消防職員採用試験を受験し、合格となったために本人自身も随分悩んだ結果、惜しまれたが自主退学となる。

6 教育環境		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
6-1	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4
6-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4
6-3	学内の整理・整頓・清掃に関して定期的に管理・チェックがされているか	4
6-4	学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6-5	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-6	防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか	4
6-7	定期的に防災訓練を実施しているか	4

## ① 課題

学内外の実習施設として本校の所在地が管轄されている尾三消防本部への救急車同乗実習をはじめ、各種医療機関における臨床実習などが整備されている。

しかし新型コロナウイルス感染症の影響により海外研修は困難であり、企画運用に関しても参加人数の都合によりESAを主体とした他の大学・専門学校との協力運用が今後検討されている。

## ② 今後の改善方策

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、郊外学習は増加していくことが考えられる。

1. 中部国際空港集団災害訓練 模擬傷病者ボランティア
2. いびがわマラソン 救護活動ボランティア
3. 愛知医科大学病院集団災害訓練 模擬傷病者ボランティア

上記の内容はこれまで本校が教育上において実施してきた郊外学習である。

## ③ 特記事項

防災に関しては消防設備点検、避難訓練の実施などのコンプライアンスを遵守して学校運用されている。

近年、シミュレーション実習用のトレーニング人形をはじめとする必要備品の定期購入を行い、教育の充実化を図っている。

7 学生の受入れ募集		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
7-1	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	4
7-2	学校説明会等による情報提供(育成人材像、目指す資格、学費・教材費等の情報)を行っているか	4
7-3	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	3
7-4	学校案内等には選抜方法が明示されているか(入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか)	3
7-5	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4
7-6	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-7	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4

### ① 課題

コロナ禍の影響もあり、訪問などによる高等学校との接触の機会が減少し、高等学校への本学の魅力や特色を十分に伝えることができていない。また、卒業生調査により在校生に本学の理念が十分に浸透していない事実が浮き彫りになっている。

### ② 今後の改善方策

新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、の感染法上の位置づけが引き下げるなど環境が整いつつあることから、訪問による高等学校への情報提供により卒業生の国家試験や就職などの実績をアピールするとともに、在校生による母校訪問を再開することで、学生目線での本学の情報を高等学校へ届ける努力をする。また、学校ホームページを見直し、学園の理念を分かり易く紹介する。

### ③ 特記事項

歯科技工士科の魅力伝えるため、急成長している CAD/CAM などのデジタル歯科技工教育への本学の取り組みをアピールする。

8 教育の内部質保証システム		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
8-1	養成施設指定規則等の遵守と適正な運営がなされているか	4
8-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	4
8-3	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3
8-4	個人情報保護規程が文書化されているか	4
8-5	個人情報の取扱いについて、教職員に対し周知し、意識づけができていないか	3

8-6	自己点検・評価の組織があるか	4
8-7	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4
8-8	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4
8-9	学校関係者評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4
8-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
8-11	自己評価結果を公開しているか	4
8-12	学校関係者評価結果を公表しているか	4

① 課題

・規程の見直し、改廃を行っているが、全ての規程の見直しまでには至っていない。

② 今後の改善方策

規程の改廃が必要なものをリストアップし、規程改廃を検討する。

9 財務		適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1
9-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	4
9-2	年度予算・中期計画が策定されているか	3
9-3	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
9-4	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3
9-5	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4
9-6	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4
9-7	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取り組んでいるか	4

① 課題

予算の執行状況については4半期ごとに分析しているが項目により予算外の支出があることがある。

② 今後の改善方策

飛び込み案件について財務面での中長期計画を策定した上での判断をするようにする。引き続き、計画的な学園ごとの建物の補修工事の策定が必要である。



10 社会貢献・地域貢献		適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
10-3	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

### ① 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育資源を活用した社会貢献・地域貢献、積極的な公開講座などの実施が制限もあり実施困難であった。今後は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、郊外学習は増加していくことが考えられる。

### ② 今後の改善方策

昨年度、NPO法人大阪ライフサポート協会における心肺蘇生指導インストラクター講習会を受講し、地域住民などの一般市民および医療従事者へ対する資格取得が可能な講習会の開催が可能となった。

今後は地域に対する公開講座として今以上に積極的に対応していく予定である。

### ③ 特記事項

学校施設などの社会貢献の状況(令和4年度実績)

- 1) 三好丘小学校 社会見学の受入れ
- 2) NPO法人親子支援センタークレヨンランド公開講座  
「乳幼児に対する事故防止と119番通報の判断など」
- 3) VR講習会インストラクター講習会(沖縄医療工学院など)
- 4) 小牧高校 心肺蘇生法などの出張講義
- 5) いびがわマラソン救護活動ボランティアへの参加
- 6) 障害者支援センター山中 運動会支援ボランティアへの参加